

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470201144	事業の開始年月日	平成17年4月1日	
		指定年月日	平成17年4月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ横浜菅田			
所在地	(221-0864) 神奈川県横浜市神奈川区菅田町673 -1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成23年8月6日	評価結果 市町村受理日	平成23年10月19日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は緑が多く、自然に恵まれているため四季を感じやすい環境である。近くには大家さんの畑があり、芋掘りやみかん狩りを楽しむことができる。施設内にはフィットネスが併設されているため、昼休みを利用し、ご利用者様もフィットネスをすることができる。
2階にはテラスがあり、お茶をしたり、バーベキューや芋煮会を行う事ができる。また、夏には花火も観ることができる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年8月24日	評価機関 評価決定日	平成23年9月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇事業所の理念である「いつもの顔、いつもの声で、沢山の笑顔に囲まれた、暖かくて居心地の良い、お一人おひとりが望む生活を実現します」を、玄関と事務室に掲示して、職員は、利用者が日々心安らかに笑顔で過ごせるよう理念の実践に努めている。
◇事業所の大家の畑で芋掘りやミカン狩りをし、隣接する会社と共同で避難訓練を行い。また、自治会や団地の盆踊りや祭りに参加したり、近くの保育園を訪問するなど、地域との付き合いを活発に行っている。
◇職員に近未来プランとして3年後、5年後の夢を持ってもらい、管理者との面接でその具体化策を検討して、個別計画に落とし込みサービスの質の改善を図っている。今年のスローガンには「人を育てる」を掲げて取り組んでいる。

【事業所が工夫している点】

◇入浴時には、脱衣場と浴室の温度差がないように留意し、浴槽内に台を置き湯船に入る時の安全と、ゆっくり湯に浸かれるように配慮している。
また、季節に応じて菖蒲湯や柚子湯など楽しんでいる。
◇食事では、時には餃子などの出前を頼むこともあり、遠出のとき外食したり、あるいは、リビングに椅子を並べてそうめん流しをするなど、食事を楽しめるよう工夫している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ横浜菅田
ユニット名	ひまわり壺番館

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
	○	2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	○	3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
	○	2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
	○	2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミモザとしての理念。ミモザ横浜菅田としての理念をユニット玄関に掲示し、職員全員で共有しています。	・法人の運営方針と今年度の目標の「人を育てる」、および事業所独自の理念を玄関と事務所に掲げている。 ・職員は理念を念頭に、利用者一人ひとりが心安らかに笑顔で生活できるようなサービスの具現化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の畑を利用させて頂き、ジャガイモ掘りやみかん狩りをさせて頂いてる。また、ホームの避難訓練に参加していただいたり、町内の行事に参加している。	・利用者が、団地や自治会が開催する祭りや盆踊りに参加したり、近隣の保育園の園児と交流している。 ・事業所の避難訓練にも、隣接する他社の職員に参加してもらい交流を深めている。	・フィットネスサロンに来訪する地域の方に、利用者との交流やボランティア活動への参加を呼びかけることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練に地域の方に参加していただき、誘導の手伝い等していただいた。始めに認知症についての説明を行い、理解をしていただいた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、各ユニットの状況報告及び問題点等を話し合っています。	・運営推進会議は、2か月ごとに開催し、家族の代表・民生委員・地域ケアプラザの職員が参加して、意見や要望を聞いている。 ・具体的な提案はその都度検討して、運営に反省している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の高齢支援課とは密に連絡を取り、利用者様の状況を報告、相談をしている。	・区の高齢支援課や生活保護課の担当者とは、利用者の入退所時の支援などで打合せする機会が多く、緊密に連携している。 ・事業所の運営上の問題についても適宜相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議や研修を通して身体拘束を行わないケアについて理解している。	・身体拘束廃止委員会を設け、事業所全体で拘束の廃止に取り組んでいる。 ・防犯上玄関は施錠しているが、希望によりスタッフ同伴で外出している。夜間歩き回る利用者には声をかけて落ち着かせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待防止について理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して職員が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用契約書及び重要事項説明書について説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、色々な情報、問題点を、話し合っている。入口には目安箱を設置している。	・家族会を年2回開催して、家族の意見や要望を聴き、改善につなげている。玄関に目安箱を置いている。 ・重要事項説明書に外部の苦情申し立て機関の連絡先が明記しており、契約時に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面接や日常の中でのコミュニケーションにより、意見・提案を聞き出すよう努力している。また、社内では近未来プランの面接も行っている。	・月1回のスタッフ会議や日常の申し送りの中で、職員の意見・提案を聴き、運営に反映している。 ・職員に、面接時3、5年後の近未来プランを話してもらい、人材の育成に活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の創業式典では、社長賞・本部長賞を設け、表彰している。各スタッフに役割分担し、やりがい・向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修及び外部研修に積極的に参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会や地区別のブロック会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活の中で、困っている事、出来ない事、又好きな事等を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族の思いを受け入れ、安心して頂けるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族のニーズを見出し、最も良い、また最も適するサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、遊んだり、会話をしたり、生活時間を共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と職員が話し合い、利用者様と一緒に支援していく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の緩和また、外出時間の緩和を柔軟性をもって対応し面会に来やすい雰囲気作りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・面会や外出時間についてはできるだけ柔軟な対応を心掛け、知人・友人との関係の継続を支援している。 ・スタッフが付き添って、利用者の馴染みの場所への買い物やコーヒーを飲みに出かけることもある。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性を配慮して、食席の並びを配慮している。また、孤立しがちな利用者様に対し、レクリエーションを活用し他の利用者様と関わる雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後はあまり付き合いが無い。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と接する中で思いを把握し、また家族からの情報を収集し出来るだけ希望や意向の把握に努めています。	・利用者についての情報は、本人・家族に加え、ケアマネや民生委員からも時間をかけて聴取している。 ・本人の意向の把握が困難な場合は、日常の反応を見ながら意向を汲み取るようにし、情報は、連絡ノートにて職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、親戚よりこれまでの生活歴、ライフスタイルの情報収集に努め、また在宅において何らかのサービスを利用していた場合は担当者より情報提供を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスを行い、常に状態の変化を把握し、スタッフ間で情報を共有する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、ケアプランに反映している。	・介護計画は3か月毎、状況が安定している場合は6か月毎に作成している。作成にあたっては、全職員でのケアカンファレンスを行い、本人や家族の意見を反映している。 ・状況の変化があれば、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基にカンファレンスを行い、情報を共有しながらケアプランのモニタリングをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時、家族だけでは詳細が分からない為、一緒に同行したりしています。また家族が受診に行けない時はスタッフが対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では地域支援包括センターの方に参加していただき、支援に関する協力体制を築いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診に来てもらっている。また緊急時連絡すれば臨時で往診に来てもらうこともある。	・本人・家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診を支援しているが、現在は、本人・家族の希望により全員が、提携医で受診している。 ・内科医が月2回、歯科医は毎月往診して訪問診療を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時以外でも電話にて24時間相談できるような体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はお見舞いに行き状態を把握し、御家族にもこまめな連絡をし情報をいただくようしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族に状況を報告し、職員には申し送りやスタッフ会議にてケアの方向を話している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が重度化した場合の対応指針があり、入所時には本人・家族にも説明して了解を得ている。 ・医師の往診時に、本人・家族の意向を踏まえて今後の方針を話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化・終末期に向けた対応について、年間計画に基づき、職員に対する内部研修や外部研修を実施されることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを作成し、スタッフ会議等で情報を共有している。 消防署員の指導で心臓マッサージやAEDの使用方法を学んだ。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には消防署の方に来ていただきや地域の方へ参加を呼びかけ参加していただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の指導を得て実施している避難訓練では、隣接する会社の職員が利用者をベランダや駐車場に避難させるなどの協力を得ている。大震災でも、訓練通り無事避難できた。 ・水・乾パンその他の食糧は、3日分備蓄している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、簡易トイレの用意についても検討が望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の採用時、個人情報遵守の誓約書を交わしている。職員は一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない声掛けを実践し、思いをくみ取れる対応に努めている。	・スタッフ会議の議事録には、利用者名をイニシャルで記入するなど、個人情報の保護に努めている。 ・トイレ誘導の際は、他の利用者気づかれないよう、耳元で小声で声掛けし羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面で、御自分で決められることは尊重し、決められないことは職員がわかりやすく説明し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物等外出の希望や、入浴の希望もできるだけ叶えられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際、洋服を選んでもらったり、鏡の前に誘導し整容をうながしながらできることはご自分でしてもらえよう支援している。また2ヶ月に1度髪カットのため美容師の方に来てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け等できることを手伝っていただけるよう声掛けし一緒に行っている。また、献立作り・買い出しも一緒に行ける方は一緒に行ってもらっている。	・利用者の力を活かして、職員と一緒に食事作りができるよう支援している。 ・利用者の希望により、餃子などの出前を取ったり、ファミリーレストランで外食をするなど、食事を楽しめるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・習慣についてはご家族より情報をもらうようにしている。毎日水分量は記録し、変化があれば往診時医師に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自分で出来る方には声掛けし、できない方には介助をし清潔を保持している。週1回訪問歯科に来ていただき、歯科衛生士より口腔内の説明、指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助が必要な方には排泄毎に記録し、パターンをつかみ、カンファレンスにて適切な対応ができるよう支援している。	・職員は利用者毎の排泄パターンを把握して、トイレに誘っている。オムツの利用者もできるだけトイレで排泄ができるよう見守り、利用者が自分で立ち上がってトイレに行こうとする力を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談し薬を調整している。飲食物の工夫や運動等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば、できるだけ本人の入りたい時に入浴できるよう対応をしている。	・入浴は週2・3回、午後行っている。脱衣場と浴室の温度差が無いように気をつけている。 ・浴槽内に台を置き、湯船に入る時の安全に配慮している。また、菖蒲湯や柚子湯で季節感を味わえるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はとくに決めず、テレビも見ただけ観てもらっている。日中も休みたい時に休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、薬剤師も同行してくれるため、わからないことはすぐに確認することができる。薬が変更された際は申し送り・記録に残し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から家事や趣味等得意分野を見つけ、生活の中で発揮できるように支援している。囲碁や書道・ぬり絵ボランティアの方に来て頂いている。誕生会や季節ごとの行事も取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればできるだけ希望に沿う事ができるよう支援している。また、職員では対応が困難な場合はご家族に声掛けしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の散歩は、午前中近くの公園に出かけている。 ・職員が付き添って、近所への買い物に行く利用者もいる。 ・年間行事の一つとして、ズーラシアに出かけたりしている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば一緒に買い物へ行き、預かり金からお金を支払う事ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば使っていただけるようにしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中央にリビングがあり、そのまわりに居室が配置されているため、集まりやすい環境にある。リビングには季節に合った貼り絵などを掲示し、季節感が伝わるようにしている。	・利用者が作成する貼り絵(夏は花火)やカレンダーで季節感を表わし居心地よい空間を演出している。 ・リビングのレイアウトは利用者の好みに配慮して、テーブルやソファの位置を決めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ・椅子があり、テレビを見たり、新聞を読んだり談笑できるスペースが確保されている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、御家族と相談しながら、できるだけ本人の使い慣れたものを持って来ていただき、居心地良く過ごしてもらえよう工夫している。	・居室は、事業所が設置しているエアコンとクローゼット以外は、利用者がベッド、タンス、仏壇、植木など馴染みのものを持ち込んでいる。 ・部屋の清掃は、利用者に手伝って貰いながら職員が行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングや浴室・トイレには手すりがついており、安全に生活できるようになっている。また、洗面台は利用者様が使いやすいよう低めに設定されている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミモザとしての理念。ミモザ横浜菅田としての理念をユニット玄関に掲示し、職員全員で共有しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の畑を利用させて頂き、ジャガイモ掘りやみかん狩りをさせて頂いてる。また、ホームの避難訓練に参加していただいたり、町内の行事に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練に地域の方に参加していただき、誘導の手伝い等していただいた。始めに認知症についての説明を行い、理解をしていただいた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、各ユニットの状況報告及び問題点等を話し合っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の高齢支援課とは密に連絡を取り、利用者様の状況を報告、相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議や研修を通して身体拘束を行わないケアについて理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待防止について理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して職員が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用契約書及び重要事項説明書について説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、色々な情報、問題点を、話し合っている。入口には目安箱を設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面接や日常の中でのコミュニケーションにより、意見・提案を聞き出すよう努力している。また、社内では近未来プランの面接も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の創業式典では、社長賞・本部長賞を設け、表彰している。各スタッフに役割分担し、やりがい・向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修及び外部研修に積極的に参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会や地区別のブロック会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活の中で、困っている事、出来ない事、又好きな事等を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族の思いを受け入れ、安心して頂けるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族のニーズを見出し、最も良い、また最も適するサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、遊んだり、会話をしたり、生活時間を共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と職員が話し合い、利用者様と一緒に支援していく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の緩和また、外出時間の緩和を柔軟性をもって対応し面会に来やすい雰囲気作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性を配慮して、食席の並びを配慮している。また、孤立しがちな利用者様に対し、レクリエーションを活用し他の利用者様と関わる雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後はあまり付き合いが無い。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と接する中で思いを把握し、また家族からの情報を収集し出来るだけ希望や意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、親戚よりこれまでの生活歴、ライフスタイルの情報収集に努め、また在宅において何らかのサービスを利用していた場合は担当者より情報提供を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスを行い、常に状態の変化を把握し、スタッフ間で情報を共有する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、ケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基にカンファレンスを行い、情報を共有しながらケアプランのモニタリングをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時、家族だけでは詳細が分からない為、一緒に同行したりしています。また家族が受診に行けない時はスタッフが対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では地域支援包括センターの方に参加していただき、支援に関する協力体制を築いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診に来てもらっている。また緊急時連絡すれば臨時で往診に来てもらうこともある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時以外でも電話にて24時間相談できるような体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はお見舞いに行き状態を把握し、御家族にもこまめな連絡をし情報をいただくようしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族に状況を報告し、職員には申し送りやスタッフ会議にてケアの方向を話している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを作成し、スタッフ会議等で情報を共有している。 消防署員の指導で心臓マッサージやAEDの使用方法を学んだ。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には消防署の方に来ていただきや地域の方へ参加を呼びかけ参加していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の採用時、個人情報遵守の誓約書を交わしている。職員は一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない声掛けを実践し、思いをくみ取れる対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面で、御自分で決められることは尊重し、決められないことは職員がわかりやすく説明し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物等外出の希望や、入浴の希望もできるだけ叶えられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際、洋服を選んでもらったり、鏡の前に誘導し整容をうながしながらできることはご自分でしてもらえよう支援している。また2ヶ月に1度髪カットのため美容師の方に来てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け等できることを手伝っていただけるよう声掛けし一緒に行っている。また、献立作り・買い出しも一緒に行ける方は一緒に行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・習慣についてはご家族より情報をもらうようにしている。毎日水分量は記録し、変化があれば往診時医師に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自分で出来る方には声掛けし、できない方には介助をし清潔を保持している。週1回訪問歯科に来ていただき、歯科衛生士より口腔内の説明、指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助が必要な方には排泄毎に記録し、パターンをつかみ、カンファレンスにて適切な対応ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談し薬を調整している。飲食物の工夫や運動等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば、できるだけ本人の入りたい時に入浴できるよう対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はとくに決めず、テレビも見ただけ観てもらっている。日中も休みたい時に休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、薬剤師も同行してくれるため、わからないことはすぐに確認することができる。薬が変更された際は申し送り・記録に残し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から家事や趣味等得意分野を見つけ、生活の中で発揮できるように支援している。囲碁や書道・ぬり絵ボランティアの方に来て頂いている。誕生会や季節ごとの行事も取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればできるだけ希望に沿う事ができるよう支援している。また、職員では対応が困難な場合はご家族に声掛けしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば一緒に買い物へ行き、預かり金からお金を支払う事ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば使っていただけるようにしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中央にリビングがあり、そのまわりに居室が配置されているため、集まりやすい環境にある。リビングには季節に合った貼り絵などを掲示し、季節感が伝わるようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ・椅子があり、テレビを見たり、新聞を読んだり談笑できるスペースが確保されている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、御家族と相談しながら、できるだけ本人の使い慣れたものを持って来ていただき、居心地良く過ごしてもらえよう工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングや浴室・トイレには手すりがついており、安全に生活できるようになっている。また、洗面台は利用者様が使いやすいよう低めに設定されている。			

目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ横浜菅田

作成日

平成23年9月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流を増やす。	ボランティアを通して地域との付き合いを増やしていく。	社会福祉協議会を通じて、ボランティアを依頼する。	1年
2	4	運営状況を行政の方にも把握してもらう。	オブザーバーとしての視点で、行政職員のご意見をお聞きする。	神奈川区役所に、運営推進会議への参加を打診する。	6か月
3	33	重度化した場合の対応に不安がある。	重度化、終末期に向けての支援ができる。	職員に対する内部研修、外部研修を実施する。	2年
4	35	災害時の食料外の備蓄を検討する。	災害時における備品の整備。	簡易トイレやブランケットの購入。	6か月
5					